

New Wave No.5

ニューウェーブ

平成 14 年 (2002 年) 3 月 25 日 発行

男女共同参画社会を考える

◆ 諸外国との比較の中から ◆

* 結婚についてのインタビュー

* シンポジウム報告

◆ 男女共同参画推進条例が
できました ◆



男女共同参画社会を考える

諸外国との比較の中から

結婚についてのインタビュー

かつて男女の不平等が最も具体的に表われていたのは、家族関係においてではないでしょうか？その後、時代の移り変わりとともに、男女の平等は大きく前進しているように思えます。しかし、大半の家庭において男女の役割には違いがあり、それが常識とも思われているようです。

今回のニューウェーブでは本市在住の3名の方（Aさん・韓国出身、Bさん・台湾出身、Cさん・メキシコ出身）に、「結婚」をテーマにインタビューをし、日本と諸外国の制度や文化を比較しながら、男女共同参画について考えてみることにしました。

▼日本では、結婚すると男性が家庭の経済を支え、女性が家事や育児を担当することが多いようですが、皆さんの出身国では男性と女性の役割に違いがありますか？

Aさん（韓国）
世代によって考え方が違います。私たちの時代では、儒教のしきたりを重んじる人が多いことから、男性が仕事をして、女性が家庭を守るというのが主流でした。一般の家庭で男性が家事をするというのはいい意味の「分担」ではなく、仕事がないからと出来ないからと考えられてしまいました。ですが、若い世代では男性も女性もお互いに目標を持って一緒に働き、家庭においても協力しあって家事や育児をする家庭が増えてるように思います。

Cさん（メキシコ）
今の若い世代では、結婚しても二人とも仕事は続けて、子どもができたら女性の方が1年半くらい仕事をお休みして、また復帰します。子どもの面倒は、自分の実家が近ければ親にみてもらうとか、またはベビーシッターに頼むとかしているようです。私のころは、男性が家計を支え、それで足りないとき、例えば家を買うなどの目的があるときには女性も働いたりしましたが、結婚したら大体女性が家事・育児をしていたように感じます。けれど、男性は家事・育児に関わらないというのではなく、手助けしていたように思います。

Aさん 私たちの時代には人件費が安く、地方から奉公にやってくる女の人（知り合いの紹介）に、家事をしてもらったというところもありましたが、今はそういうことはありません。共働きの人は子どもを実家の母

か夫の母に預けるか保育園に預け、小学校にあがるまでの読み書きなどを教えてもらったりします。

Cさん メキシコでも韓国と同じように、知り合いの紹介で地方から来た人が家族のように一緒に住んで、お手伝いさんのように家事や仕事をするということもありました。

Bさん（台湾）
個人的には男女の役割分担は社会の変化と関係があると思います。この点で、台湾は割に日本と近いと思います。祖父の時代は農業社会で男女関係なく農業をしていました。商工業社会になった親の時代には男性が家庭の経済を支え、女性が家事や育児を支えるのが一般的でした。私の実家はそうでした。が、自営業者が割合多い台湾では妻が夫の仕事を分担する場合もあります。私の時代になると、男女共働きが当然のことなので、夫・妻がお互いに家庭の経済や家事や育児を分担します。また、子どもを保育園や親戚や知人に預ける場合もよくあります。

▼結婚後感じた文化や習慣の違いには、どのようなことがありますか？

Aさん 生活の中では違いがたくさんあって、例えば布団のたたみ方ひとつにしても、日本は模様のある方を内側にたたみますが、韓国は外側にたたむなど、いろいろありますね。

Cさん メキシコでは洗濯物は屋上とか人目につかないところに干すのですが、日本では庭先などに干すことにびっくりしました。

Bさん 今から十数年前、日本に来て半年くらいたつて台湾に帰ったときのことですが、友人に、「日本の主婦は何をしていすか」と聞かれ、私は、「毎日布団を干しています」と答えました。当時、夫と布団を干すことで意見が合わなかったこともありました。でも、今では日本は湿気が多い国なので、布団は外に干した方がいいと思うようになりましたが。

Aさん それから、親戚の呼び方。日本ではおばさん、おじさん一つで通るもの、韓国では全部違う。韓国の男性と結婚した日本の女性はとても大変だと言っていました。

Bさん 台湾も親戚の呼び方がそれぞれ違います。日本では甥や姪が叔父・叔母に「○○さん」と名前を付けて呼ぶようですが、最初は「とても礼儀知らずね」と思いました。台湾では年上の人には絶対名前では呼びませんので。でも今は私が「○○さん」と年下の人に呼ばれても気にしないうです。

Aさん 日本ではいとこはいとこでしょ。韓国ではいとこでも年が上でしたらお兄さん、お姉さんになります。上下関係が厳しいですね。職場でも、年上の人に「お兄さん」と呼ぶ人もいます。本当の兄弟姉妹でもないのにと、日本人には不思議がられます。

Cさん メキシコは名前で呼びますね。

ワークシェアリング

男性と女性の役割に違いがある原因の一つに、男性の労働時間が過度であることが挙げられるのではないのでしょうか？

ヨーロッパでは、一人一人の労働時間を減らし、労働人口を増やす試みがなされています。この試みはワークシェアリングと呼ばれ、本来は失業率の低下を目的としていますが、こうすることで男性は、家事や育児に従事しやすく、また女性は社会進出しやすくなると思われます。

労働時間が短いことが必ずしもいい事だとは言えませんが、社会における労働も家事や育児も分け合うことができる社会こそが、本当に男女平等な社会と言えるのではないのでしょうか？

▼パートナーの呼び方などはどうしていますか？また、日本の「主人」「奥さん」などの呼び方はどう思いましたか？

Cさん 「家内」というような呼び方はメキシコにもあります。家の中では違います。名前とか、子どもの前では「お父さん」とか…。

Aさん 私は韓国の名前で呼ばれます。一方、私は「パパ」と呼びます。

Bさん 日本の女性は「うちの主人」とか、「ご主人」という呼び方を嫌がると聞いて驚いたのですが。

Aさん 韓国の人に「何で主人なの？」と言われたこともありました。

Bさん 漢字で見ると、主人に対して、召し使いといったように感じるかもしれません。私が、私は、「だんなさん」よりも「ご主人」の方が、抵抗がないです。最近「夫」「妻」という言い方をする人もいますね。

▼出身国の、結婚後の改姓の仕方について教えてください。

また、改姓について日本の制度や習慣（大半が男性の姓を名乗ること）についてどう思いますか？

Aさん 韓国では夫婦別姓です。日本のように同じ苗字になるのは、同じファミリーだと分るところがいいですね。

Bさん うちの夫もそう言います。でも、私の意見は違っていて、自分の苗字も使いたいです。夫婦別姓の制度が成立して、家族、夫婦で話し合っって選べれば、いいなと思います。個人的には法律が成立すべきだと思えます。家族の絆も確かに大事ですが、専業主婦が多かった頃から仕事を持つ女性が増えてきているので、別姓制度が必要だ

と思います。

Cさん メキシコでは、ファーストネームの後ろに、父と母の苗字が続きますが、結婚したら父と夫の苗字になります。（コラム参照）

名前を選ぶというのは国籍を選ぶ問題と似ている気がします。

Bさん 台湾では生まれた国の国籍を持つことも出来、「二重国籍が認められています」。

Cさん うちの子どもは日本で生まれましたが、日本の国籍です。

Aさん 韓国ではどこで生まれても父親の国籍をもらうことになりました。

「男女共同参画」については、お国によっても、また、世代によってもいろいろと違いがあるようです…。

Bさん 私は、相手にわかって欲しいことはドンドン言えたいのではないかと思いますが、少し上の世代の方の中には、結婚後何十年も我慢して、50、60代になるまで言いたいことを言わなかったという方もいるようです。

Cさん 若いときは遠慮してしまうものかもしれないけれど、だんだん本音が言えるようになってくる。子どもが手から離れて自分の時間ができると、夫婦の時間もできるのではないかしら。

Aさん 今、男女共同参画社会の時代として、世の中は随分変わってきている、そういう段階だからこそ、いろいろな意見が出てきます。この時代はこうだったなあ、今の人はこうだなと受け取りながら生活していけばいいのではないかと思いますね。



結婚したら夫婦の姓はどうなるの??

日本

夫もしくは妻の姓を選択（夫婦同姓）。ただし、97%程度が夫の姓を選んでいるといわれている。

韓国

夫婦別姓。原則として子どもは父親の姓となる。

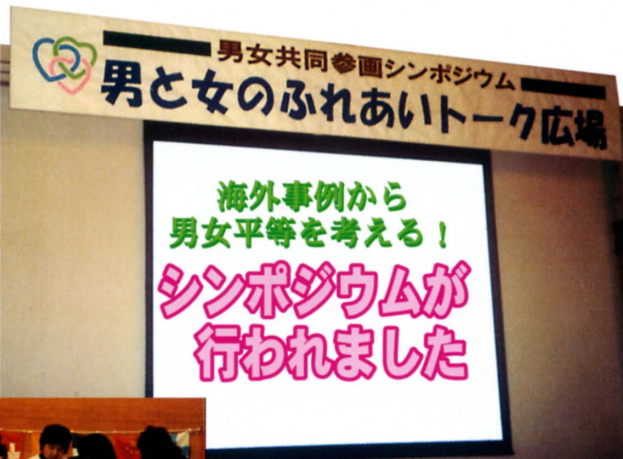
台湾

妻(夫)の姓の上に夫(妻)の姓を重ねる時代から夫婦別姓に変わってきた。子どもは父親の姓を名乗るのが一般的。

メキシコ

ファーストネーム+父の姓+母の姓が、結婚をすると女性はファーストネーム+父の姓+夫の姓となる。また、既婚者だとわかる単語が名前に新たに付く。

世界には、男女共に同姓・別姓・結合姓などから選択が認められている国、夫の姓は変わらず、妻には選択権が認められている国、原則として夫の姓になる国などがあり、制度は様々です。



諸外国との比較の中から、日本社会の男女平等を見直すというイベントが、12月1日、総合福祉会館で開催されました。公募市民を交えた実行委員会が企画に携わったことから、参加者みんなが発言できるようテーマ別に7〜8人のグループで討議を実施。会場は活気に溢れました。各テーブルには外国人も加わり、仕事と家事分担、社会の習慣、夫婦姓について、それぞれの国の事例を比較しながらの話合いが続きました。最後には、「もっと多くの人に参加を」「時間が足りない」などの声があり、男女共同参画についての関心の高さが感じられました。



男女共同参画推進条例ができました

=平成14年4月1日から施行=

だれもが性別にかかわらず個人として尊重され、自分の意志で行動ができる社会の実現をめざして、条例を制定しました。条例の全文は、男女共同参画課のホームページからもご覧になれます。

条例の主な特長

- ・性別による人権侵害をなくします。
- ・苦情等の申し出に対応する男女平等専門委員を置きます
- ・市、市民、事業者と協働して推進します
- ・ドメスティック・バイオレンスなどの暴力に対応します
- ・市役所が男女平等のモデル事業所になります
- ・男女共同参画推進拠点を設置します

編集後記

インタビューのときの余談ですが、諸外国の方の目にする「コタツ」は奇妙な物体であるという事実にとっても驚きました。当たり前のようにしている行動も文化によっては異なり、たちまち「奇妙な物体」になる、これはとてもオモシロイ！と思いました。逆に私ももし諸外国へ行ったら、色々な「奇妙な物体」に出会うことでしょう。

男女の平等、不平等という面で諸外国の方々が日本を見たとき「奇妙な…」と思われる面がひょっとしたらあるのかもしれない。男、女の平等を考えると、幼少の頃を思い出して考えてみてはどうでしょうか？その頃は未だ「男だ、女だ」的考えは存在しなかったのですから…。

鈴木夕紀子

3名の方の取材から「結婚は、お互いに相手をお願いやうして理解を深めていくものだなあ」と、感じました。

結婚以外の人間関係においても、相互理解と尊重には「思いやり」が大切。簡単な様でこれは結構大変だ！と思う今日このごろ。

沼野 美保

男女平等を実現させるために一番必要なことは何でしょうか？

今回のニューウェーブを作成するにあたって、一番感じたのは、異性の立場にたって考えることはとても大切なことで、かつ困難なことだと思います。

法的な部分では男女平等は実現しつつあるように思いますが、お互いの立場になつて考えるということがなければ、男女の不平等感はいつまでも解消されることがないように思えます。

ニューウェーブがみなさんの身近な、男女の平等、不平等について考えるきっかけになつてほしいと思います。久保 隆明

◎ニューウェーブは公募による市民の方によって、企画編集を行っています。

皆様のご意見やご感想をお待ちしています。

横須賀市市民部男女共同参画課 〒238-8550 横須賀市小川町11 ☎0468-22-8228
e-mail we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp
ホームページ http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/gender/